

6. 「演劇」と「リフレクション」で自分と相手を理解する

(応募チーム：AAI (松戸市))

(評価)

地域における外国人との交流が進まない中で、同じ地域に住んでいながら、日本人と外国人の「交流がないため、お互いが見えない、わからない、そして不安、ここから生まれる孤立や対立、日常の問題への対応、そして災害時が起きた場合の想定、こういった懸念」(プレゼン者発言)を少しでも和らげるために、演劇手法を用いた多文化共生の促進を進めようという構想はこれまでになくユニークで評価できるものである。

(アドバイス)

(1) 演劇の準備から練習、講演までを市民に広く知ってもらうこと

演劇に参加できる人は数が限られることから、演劇を通じた経験による多文化共生の促進にはそれなりの限界がある。そこで、①市内各地で応募により複数の演劇チームを組み、競い合いながら、市域でこのイベントを盛り上げていくこと、②以上の経過を演劇の準備から練習、講演までビデオに録り、動画として配信して、市民の投票により多文化共生の促進に優れた演劇チームを表彰する、などといった広報手段も検討してみてもいかがでしょうか。また、今後他の地域での展開もその地域の方とタイアップして視野に入れた見られては如何でしょうか。(例えば、共同発表会、台本の共有、役者の交換なども考えられます)

(2) テーマ選び

外国人の日本での日常生活で感じるちょっとした違いをテーマに選ぶとよいかと思います。その際、外国人通しても出身によって感じ方が異なる可能性があるので、複数の出身の外国人と日本人の演劇によるチーム編成も有意義ではないかと思います。

(3) 行政の支援か市民自主か

行政の支援があるとやりやすいとは思いますが、まず市民が自主的に演劇サークルを作って始めて見るのも良いかと思います。その際に、この活動が市の多文化共生の促進ともマッチするということで、市からの後援などのサポートがあったほうが活動の円滑な推進のためには望ましいかと思います。このあたりの連携を模索されてはいかがでしょうか。